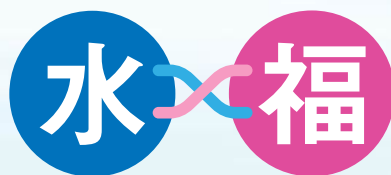


かながわ水産業福祉連携推進事業 マニュアルガイドブック 2025



Fisheries industry
×
Welfare business



神奈川県環境農政局農水産部水産課
認定特定非営利活動法人 藤沢市民活動推進機構
特定非営利活動法人 湘南 NPO サポートセンター

かながわ水産業福祉連携推進事業マニュアルガイドブック 2025

目次

「水福連携」を知っていますか?.....	3
神奈川県の水産業 主な漁協と水産加工品	4
障がいの特性.....	6
障がい福祉サービス一覧.....	7
就労・雇用の主なパターン.....	8
マッチングに至るまでの一般的な流れ.....	9
かながわ水産業福祉連携推進事業の内容	10
かながわ水産業福祉連携推進事業 Q&A	11
相談窓口一覧	12
2024 年度までの成立事例の紹介.....	13
「しらすの箱の組立（施設内）・番重の洗浄（施設外）」 平塚茅ヶ崎魚市場とクオケア / グランズ平塚の事例	14
「小田原あんこうカレーのシール貼り・袋詰め（施設内）」 鮑屋と地域活動支援センターゆうの事例	16
「干物の袋詰め・箱入れ（施設外）」 大半商店と小田原支援センター第 2 小田原アシストの事例.....	18
「乾燥ひじきのごみ取り・袋詰め」 湘南漁協葉山支所と新葉山はばたき / SY'Style の事例	20
「養殖 / 天然わかめの乾燥・計量・袋詰め」 湘南漁協葉山支所と新葉山はばたき / SY'Style の事例	22
「刺網のばらし作業」 湘南漁協葉山支所と SY'Style / 葉山ぶらす hanto の事例.....	24
ともに生きる社会かながわ憲章	26

「水福連携」を知っていますか？



「水福連携（すいふく・れんけい）」とは…

「水産業」と「福祉」の「連携」のことです。

現在、水産業では、漁業就業者の減少や高齢化などにより、全国で担い手不足が進行しています。

他方、福祉では、支援を要する方（障がい者等）の雇用環境は厳しく、就労の機会も十分ではありません。

こうした「水」・「福」双方の課題を解決するための方策のひとつとして「水福連携」があります。

水福連携とは、福祉の支援を要する方（障がい者等）を水産業（水産加工、漁業、養殖業など）の担い手に位置付けることで、

水産業の「担い手不足の解消」と、

福祉の「就労・雇用の機会の確保」を図るものです。

また、水福連携の推進は、

「障がい者等の社会参加」＝「共生社会の実現」

を促し、神奈川県が定める「ともに生きる社会かながわ憲章」（P.26 参照）の理念の実践にもつながります。

神奈川県では、令和5年度から、NPO 法人 2 団体と協働し、県内全域を対象にして、「水福連携」を推進する取組を始め、水産業者と障がい者、高齢者（若年性認知症を含む）、生活困窮者（ひきこもり等）のマッチングを支援しています。

本書では、

「水福連携」に関する基礎知識と進め方についての情報を記載しています。

本書は、水産業者、福祉関係者、また水産業と福祉の懸け橋になりたいと考えている方を主な対象としていますが、お読みいただく方それぞれにとって水福連携について考え、進めていただく上での一助になりますと幸いです。

神奈川県の水産業 主な漁協と水産加工品

神奈川県は、豊かな海に恵まれており、多種多様な魚介類が水揚げされるとともに水産加工業が盛んな地域でもあります。

特に三崎や小田原を中心に、さまざまな水産加工品が生産されています。神奈川県内で特に注目される水産加工品と、その特徴をいくつかご紹介します。

神奈川県の水産加工品は、地域の特産物を活かしたものが多く、観光資源となっており、お土産としても喜ばれる商品が多いです。 ●は漁業協同組合です。

神奈川県で水揚げされる主な魚

マグロ類・イワシ類・アジ類・サバ類・ヒラメ・キンメダイ・マコガレイ・ホウボウ・ブリ・カマス類・スズキ・タチウオ・マダイ・マアナゴ・アワビ類・サザエ・イセエビ・スルメイカ・アオリイカ・マダコ・アユ・ワカサギ



●干物・かまぼこ・さつま揚げ（小田原）

小田原地域は、かまぼこやさつま揚げの産地として有名です。練り物文化が根強く、昔ながらの製法を守りつつ、現代風にアレンジされた商品も多く見られます。地元で獲れる新鮮な魚を使った干物も人気です。サバやアジ、カマスなどが主に加工され、干物の風味と食感が楽しめます。

相模湾

相模湾で行われる主な漁業
 定置網・刺網・シラス船びき網・まき網・一本釣りなど

●川崎河川

●羽田空港

●横浜東

東京湾



マコガレイ

東京湾で行われる主な漁業
小型底びき網・刺網・アナゴ筒
タコつぼ・海藻養殖など



タチウオ



スズキ



マアナゴ



ノリ

●ノリ加工品（横浜・横須賀）

横浜・横須賀ではノリの養殖が行われており、主に焼きノリとして加工して販売されています。風味豊かな海苔は、全国的にも人気です。



コンブ

●横須賀市東部



マダコ



シラス

●シラス加工品（湘南地方）

湘南地域ではイワシ類の小魚であるシラスの漁業が行われており、漁業者自らが加工品を生産・販売しています。特に釜揚げシラスやシラス干しが人気です。新鮮なシラスを使用したものは風味豊かで、地元の名産品として知られています。

江の島片瀬

●腰越

●小坪

●横浜市



ヒラメ



アワビ類



アオリイカ



アカカマス



マグロ

●マグロ・カジキ加工品（三崎）

三崎漁港は、マグロ・カジキ類の水揚げ量が多く、刺身用のマグロの柵のほかカジキ類の味噌漬・粕漬などさまざまな商品が販売されています。



ホウボウ

湘南

●長井町

●三和

●みうら

■神奈川県水産技術センター



マグロ・カジキ加工品



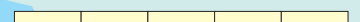
ワカメ



ヒジキ

浦賀水道

10 km



水産業と福祉の連携を進める上では、これまで水産業者が行ってきた作業を分解し、福祉の支援を要する方（障がい者等）が行えるよう適切に切り出す必要があります。

その際、福祉の支援を要する方の特性を踏まえることが重要です。

障がい者の特性は個人ごとに異なりますが、障がいごとの特性もあります。

1 身体障がい

- ・ 視覚や聴覚障がいもありますが、代表的な肢体不自由の場合、身体的な制約（車いす等）はあるものの、物理的環境を整備すれば（例えば移動を伴わない作業であれば）健常者と変わらない能力を発揮します。

2 知的障がい

- ・ 作業内容を理解するのに時間を要し、また難易度の高い複雑な作業は苦手としますが、比較的単純な作業の繰り返しには高い能力を発揮する場合があります。

3 精神障がい

- ・ 精神疾患と言われ、うつ病、統合失調症などの種類があります。
- ・ 作業内容の理解度については健常者と変わりませんが、職場での人間関係の構築が難しい場合があります。そのため、はじめのうちは、週当たりの作業日数や1日当たりの作業時間について、制約が生じる人もいます。

4 発達障害

- ・ 自閉症、アスペルガー、学習障害（LD）・注意欠陥多動性障害（ADHD）などの種類があります。
- ・ 新しい環境に慣れるのに比較的時間を要する場合があります。また、自閉症やアスペルガーの人は、こだわりが強い場合がありますが、得意分野においては秀でた能力を発揮するケースもあります。

作業の工夫

作業の切り出しを工夫することで、水福連携が可能な作業範囲を広げられる可能性があります。

工夫の例

- 1 水産業者が経験に基づいて行ってきた作業を分解し、誰もが理解できるようにするため、複雑さやあいまいさを避けて、個々の作業を単純化して行えるようなマニュアルを作成してみる。
- 2 臨機応変に対応することが苦手な障がい者も多いため、作業場所を整えてみる。
(例:整理整頓し、スロープをなくす。作業動線を単純化して、進路に迷わず目的の場所へ効率的に移動できるようにする。)
- 3 同じような作業成果が得られるように、作業道具（補助具）の開発や器具の改良を行ってみる。(例:色で比較できるような補助具を工夫する。)



©スタジオクーカ



■ 監修 久保寺 一男氏

(社会福祉法人進和学園理事／かながわ水産業福祉連携推進事業アドバイザー (令和5・6年度))

水福連携は、福祉の支援を要する方を広く対象としていますが、現実に成立している事例の多くは障がい者との連携です。そこで、障がい者に関する福祉サービスのうち、水福連携と関係が深い、障害者総合支援法に基づく就労支援関係事業をご紹介します。

その他の障がい福祉サービスに関心をお持ちの場合は下記のホームページも併せてご参照ください。

■ 参考：障害福祉情報サービスかながわ
<https://shougai.rakuraku.or.jp/service/>
(障害福祉サービスの紹介)



1 就労継続支援（A型）

- ・ 一般企業等での就労が困難な65歳未満の障がい者に対し、雇用契約を結んで働く場を提供します（雇用契約を締結した者は、労働基準法などの適用を受ける「労働者」に該当します）。
- ・ 就労に必要な知識及び能力の向上に必要な訓練などの支援も提供します。

【対象者】身体障がい・知的障がい・精神障がい
(発達障害を含む)・難病等対象者（※）

2 就労継続支援（B型）

- ・ 一般企業等での就労が困難な障がい者に対し、生産活動その他の活動の機会を提供します（具体的には、就労移行支援（「3」参照）を利用したが雇用には結びつかなかった者や50歳以上の者など）。
- ・ 就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練などの支援も提供します。
- ・ 就労継続支援「A型」は、雇用契約を結んだうえでの支援ですが、「B型」は、雇用契約の締結は不要です。

【対象者】身体障がい・知的障がい・精神障がい
(発達障害を含む)・難病等対象者（※）

3 就労移行支援

- ・ 就労を希望する65歳未満の障がい者で、通常の事業所に雇用されることが可能と見込まれる者に最長2年間を標準としてサービスを提供します。
- ・ 生産活動や就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練など、就職に必要な支援を行います。

【対象者】身体障がい・知的障がい・精神障がい
(発達障害を含む)・難病等対象者（※）

4 生活介護

- ・ 上記の就労支援事業の他に、生活介護事業もあります。
- ・ 常に介護を必要とする障がい者に対して、障害者支援施設等において、主に昼間に、身体機能や生活能力向上のための、日常生活の介護や支援、創作的活動や生産活動の機会を提供します。

【対象者】身体障がい・知的障がい・精神障がい
(発達障害を含む)・難病等対象者（※）

※「難病等対象者」とは、難病患者の内、障害者総合支援法の支援の対象となる方です。

■ 監修 久保寺 一男氏

(社会福祉法人進和学園理事／かながわ水産業福祉連携推進事業アドバイザー (令和5・6年度))

水福連携の主なパターンとしては、福祉の支援を要する方（主に障がい者）が所属する障害福祉サービス事業所と水産業者が請負（委託）契約を締結する「1 就労」のケースと、福祉の支援を要する方個人と水産業者が雇

用契約を締結する「2 雇用」のケースがあります。

また、「1 就労」は、福祉事業所の施設内での就労と、主に水産業者のもとに出向いて作業する施設外での就労に分けられます。

1 就労（障害福祉サービス事業所×水産業者）

① 施設内就労

- ・ 水産業者から請け負う作業を福祉事業所に持ち込み、施設内で作業を行います。
- ・ 職員の配置や作業時間の自由度が得られ、福祉事業所にとってのメリットがあります。
- ・ しかし、請け負う製品によっては納期が厳しいケースがあります。また、材料や製品の運搬などの車両が必要になる場合もあります。さらに、食品などの場合は衛生面の設備（冷蔵庫など）が必要となる場合があります。

② 施設外就労

- ・ 福祉事業所から水産業者の現場や企業等に出向き、請け負った作業を行います。
- ・ 障がい者への作業指示は同行した福祉事業所の職員が仲介して指導します。
- ・ 主に就労継続支援「A型」と「B型」（7ページ参照）が該当しますが、請負金額については、「A型」は最低賃金を満たす必要があります。「B型」の場合、作業環境によっては、作業ができる障がい者が限定されてしまうことがあります。
- ・ 作業場所のトイレや休憩場所をどうするかという問題や、施設外就労先までの交通課題が出てくる場合があります。

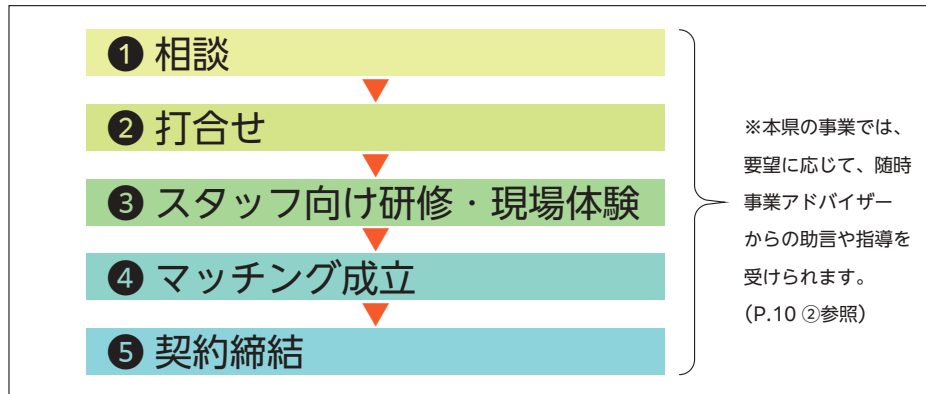
2 雇用（福祉の支援を要する方個人×水産業者）

- ・ 障がい者に一般就労という働き方をしてもらう場合は、どのような業務を担ってもらうかが大切です。職場環境さえ対応できれば、多くの障がい者が充分に働くことができます。
- ・ 近年は、障がい者雇用を単に義務として捉えるのではなく、障がい者に戦力として働いてもらうという考えが主にIT業界で出てきています。また、障害者差別解消法が改正され、令和6年4月から事業者に「合理的配慮の提供」が義務化されました。
- ・ 職場で障がい者と一緒に働くことで、健常者の社員が職場に誇りを持つことにつながったり、障がい者への配慮が一般職員の仕事のしやすさにつながったりするなど、職場全体に良い影響があったという報告も多く聞かれます。
- ・ 障害者雇用率は近年伸びてきており、業界ごとの障害者雇用割合では卸売小売業、製造業などが比較的高い水準にありますが、他の業種では水準は低く、特に漁業などは最低水準にあります。
- ・ 離職率の高さ、平均給与の低さ、求人が都市部に集中していることなども課題としてあげられます。
- ・ 近年は身体障がい者の退職問題や精神障がい者（発達障害者含む）の伸び率の著しい向上など、現場が対応に苦慮する課題も指摘されています。

■ 監修 久保寺 一男氏

（社会福祉法人進和学園理事／かながわ水産業福祉連携推進事業アドバイザー（令和5・6年度））

福祉事業所とのマッチングの場合



「かながわ水産業福祉連携推進事業」を展開し、水福連携（マッチング）の推進を支援

① 相談（P12の「相談窓口一覧」を参照）

水福連携に関心のある水産業者や福祉事業所から相談を受けます。

② 打合せ

マッチングに向けて、相手方の候補（水産業者、福祉事業所）を探します。

相手方の候補が見つかったら、当事者（水産業者と福祉事業所）をまじえて打合せを行い、どのような連携が可能か、作業内容や作業時間などの検討を行います。

③ スタッフ向け研修・施設利用者の現場体験（トライアル）

「②打合せ」を行った結果、ある程度の連携の見込みが立った段階で、福祉事業所のスタッフを対象に作業体験を行います。事業所のスタッフは実際に水産業の作業を体験し、自分の施設の利用者（障がい者）が対応できるかという観点から確認を行います。

また、必要に応じて、実際に施設利用者（障がい者）に作業を体験してもらう現場体験も行います。

④ マッチング成立 ▶ ⑤ 契約締結

「③トライアル」の結果、連携が可能な作業が決まり、マッチングが成立したら、具体的な作業内容、作業期間・場所、工賃などの詳細について、当事者間（水産業者、福祉事業所）で契約書を作成します。

※契約締結後も、必要に応じて契約内容の見直しを行うことがあります。

例えば、連携を進める中で、連携可能な作業の範囲が広がった場合は、契約書で定めた「作業内容」を変更（追加）することが考えられます。また、作業の完成度の向上が見込まれる場合は、工賃を変更するなどが考えられます。

かながわ水産業福祉連携推進事業の内容

神奈川県では、令和5年度から「かながわ水産業福祉連携推進事業」を実施し、下記のような取組を通じて、神奈川県内における水福連携の実現を推進しています。

① 研修

種類	内容	実施回数	参加者数
一般向け	水福連携の理解増進のための研修 (R5年度は藤沢市、平塚市、小田原市、逗子市で実施)	6回	54人
水産業者向け	福祉側の特性を理解するための研修	4回	50人
コーディネーター育成	水産業・福祉の双方に詳しい人材の育成研修	6回	83人
ジョブコーチ育成	福祉事業所の職員等が水産業の知識を学ぶ研修	21回	61人
現場体験	水福連携の具体的な体験型研修	21回	78人

【参考：令和5年度活動実績】

② アドバイザー派遣

水産加工、障がい福祉等の専門家を無料で派遣（対象：水産業者、福祉事業所、支援団体、市町村等）

〈アドバイザー一覧（令和6年度時点）〉

	専門	職業・所属等
大迫 一史	水産加工	国立大学法人東京海洋大学 学術研究院食品生産科学部門 教授
大西 連	生活困窮者支援（ひきこもり）	認定 NPO 法人自立生活サポートセンター・もやい 理事長
久保寺 一男	障がい福祉	社会福祉法人進和学園 統括施設長
田中 香枝	高齢福祉（若年性認知症支援）	公益法人積善会曾我病院 若年性認知症支援コーディネーター
李 銀姫	沿岸・小規模漁業、地域活性化、海業	学校法人東海大学海洋学部 水産学科 准教授
和田 律子	水産食品加工	国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産大学校食品科学科 教授
NPO 法人のわみサポートセンター	生活困窮者支援（ホームレス）	

〈アドバイザー派遣実績（令和5年度）〉

日付	アドバイザー	派遣先
令和5年5月11日	久保寺 一男	漁協（横須賀市内）
令和5年12月22日	李 銀姫	水産加工業者・行政（小田原市内）
令和5年12月22日	李 銀姫	水産加工業者（平塚市内）
令和5年12月22日	李 銀姫	漁協（葉山町内）

③ マッチングの場づくり

水産業者と障害福祉サービス事業所・社会福祉法人・障がい者を雇用する企業等が出会う機会の創出

マッチング件数	新規就労者数（延べ）	場づくりの回数（参加者数）
12件	458人／日	13回（48人）

【参考：令和5年度活動実績】

④ 研究会の開催（四半期毎）

水福連携の当事者（水産業者、福祉事業所等）、中間支援組織（NPO）、行政等が一堂に会した、意見交換、事例研究等の実施。

	開催日	開催方法	参加人数
第1回	令和5年7月18日（火）	リモート方式（Zoom）	70人
第2回	令和5年9月15日（金）	リモート方式（Zoom）	57人
第3回	令和5年12月11日（月）	リモート方式（Zoom）	58人
第4回	令和6年3月7日（木）	リモート方式（Zoom）	44人

【参考：令和5年度活動実績】

Q. 水福連携とは何か？

A. 水産業と福祉の連携のことを「水福連携（水産業福祉連携）」と言います。（3 ページ参照）

Q. なぜ水福連携を行うのか？

A. 水産業では、漁業就業者の減少や高齢化などにより、全国で担い手不足が進行しています。

他方、福祉では、支援を要する方（障がい者等）の雇用環境は厳しく、就労の機会も十分ではありません。そのため、福祉の支援を要する方（障がい者等）を水産業（水産加工、漁業、養殖業など）の担い手に位置付けることで、水産業の「担い手不足の解消」と、福祉の「就労・雇用の機会の確保」を図ります。（3 ページ参照）

Q. 水福連携における「福」とはどのような人を指しているのか？

A. 神奈川県の実践では、障がい者、高齢者（若年性認知症を含む。）、生活困窮者といった幅広い福祉の支援を要する方を対象としています。（3 ページ参照）

Q. 水福連携ではどのような作業を行う（できる）のか？

A. 「水産業」と聞くと「海に出て魚を獲る」というような作業をイメージしがちですが、水福連携では実際に海に出て危険を伴う作業を行うというのではなく、障がい者等でも対応可能な「陸での作業」を主として行います。例えば下記のような作業が想定されます。（具体的な事例については、13 ページ以降参照）

- ・ 水産加工の製造ラインでの作業
- ・ 魚の選別、箱詰め
- ・ 漁具、漁網の修理
- ・ 鮮魚の市場間やスーパー等への輸送
- ・ 魚市場での物販補助

- ・ 魚市場での包丁捌き

Q. 神奈川県ではどのような魚が獲れるのか？

A. 神奈川県には日本三大深湾のひとつに数えられる相模湾や、江戸前の海として知られる豊穡な資源を持つ東京湾、また鮎川とも呼ばれる相模川や芦ノ湖をはじめとした河川湖沼があり、多種多様な魚介類に恵まれています。（詳細は4・5ページ参照）

Q. 水福連携の推進に向けて、神奈川県ではどのような取組を行っているのか？

A. 一般の方、水産業関係者、福祉関係者などを対象に、水福連携の理解増進に向けた各種研修を行うほか、水産加工や福祉等の専門家から助言・指導が受けられる「アドバイザー派遣」、水産業者と福祉事業者等の出会いの場を創出する「マッチングの場づくり」、意見交換や事例研究を行う「研究会」などを実施しています。

また、水産業者と福祉事業者等から具体的なニーズをくみ取り、マッチングが見込まれる当事者に対しては、現場体験等の実施を通じてマッチング成立に向けた支援を行っています。（10 ページ参照）

これらの取組は県とNPO 法人2団体との協働により実施しています。

Q. 神奈川県以外ではどのような取組が行われているのか？

A. 水産庁の下記ホームページをご参照ください。

<https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/suihuku.html>
（「水福連携の推進」）



かながわ水産業福祉連携推進事業は、神奈川県とNPO 法人2団体が協働で実施しています。

この取組に関するお問合せや水福連携に関するご相談などがございましたら、下記のお問合せ先までご連絡ください。

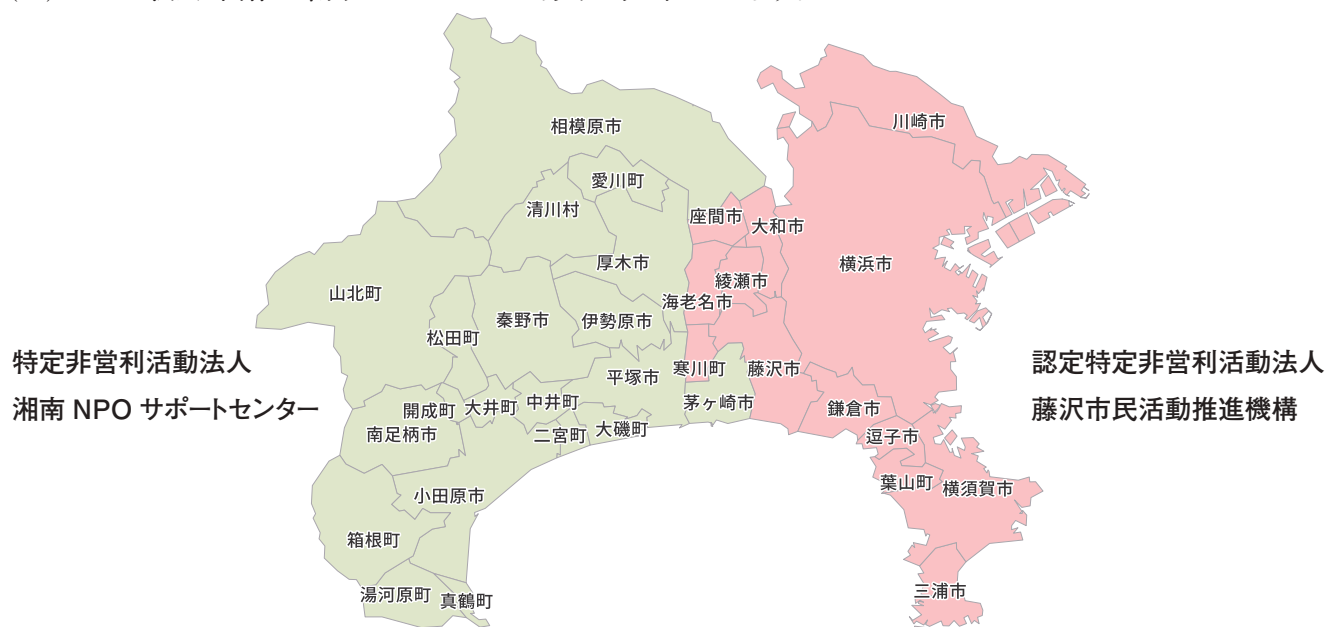
■ 神奈川県

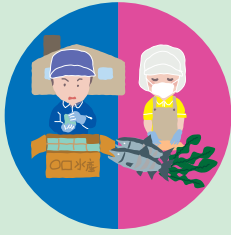
組織名	電話番号	HPアドレス
神奈川県環境農政局 農水産部水産課 水産企画グループ	045-210-4542 (直通)	https://www.pref.kanagawa.jp/docs/kb2/suifuku.html 

■ 中間支援組織 (NPO)

団体名	担当地域(※)	電話番号 (水福連携専用)	HPアドレス
認定特定非営利活動法人 藤沢市民活動推進機構	茅ヶ崎市を除く 相模川以東の地域	070-2193-4100	https://f-npocafe.or.jp/784 
特定非営利活動法人 湘南NPOサポートセンター	相模川以西の地域 及び茅ヶ崎市	080-7972-3778	https://suifuku.snposc.org/ 

(※) NPO 法人2団体で県内を2つのエリアに分けて担当しています。





2024年度までの成立事例の紹介



P14-15

「しらすの箱の組立(施設内)・番重の洗浄(施設外)」
平塚茅ヶ崎魚市場とクオケア/グランズ平塚の事例

P16-17

「小田原あんこうカレーのシール貼り・袋詰め(施設内)」
鮑屋と地域活動支援センターゆうの事例

P18-19

「干物の袋詰め・箱入れ(施設外)」
大半商店と小田原支援センター第2小田原アシストの事例

P20-21

「乾燥ひじきのごみ取り・袋詰め」
湘南漁協葉山支所と新葉山はばたき/SY'Styleの事例

P22-23

「養殖/天然わかめの乾燥・計量・袋詰め」
湘南漁協葉山支所と新葉山はばたき/SY'Styleの事例

P24-25

「刺網のばらし作業」
湘南漁協葉山支所とSY'Style /葉山ぶらすhantoの事例

(株)平塚茅ヶ崎魚市場
平塚市千石河岸 28-11



ビースマート(株) 就労継続支援B型事業所 クオケア
平塚市明石町21-6
(株)浦川屋 就労継続支援B型事業所 グランズ平塚
平塚市明石町9-2

水福連携による共生社会の実現・発展に寄与する。水産業の生産性向上と、障がい者等の社会参画を通じて仕事のやりがいと工賃向上を目指す。



■ 連携の経緯

株式会社平塚茅ヶ崎魚市場(以下、魚市場)は昭和24年発足、水産物と加工品の卸売を行っており、令和2年には平塚市唯一の公認卸売会社の許可を受けた公設民営の魚市場です。食品加工場では水揚げされた魚を加工し、学校・幼稚園・病院・介護施設などに納入しています。

就労継続支援B型事業所クオケア(以下、クオケア)は、利用者さんの「関心」や「興味」に寄り添い、動画編集、軽作業など、安心して取り組める工夫をされている事業所です。また、グランズ平塚は、利用者さんのやりたい仕事を自分自身で発見し、やりがいを見出すお手伝いと共に、自立した生活に向けて第一歩を踏み出すお手伝いを運営理念に掲げる事業所です。

水福連携推進事業が始まった令和5年4月、平塚市漁業協同組合(以下、平塚市漁協)に事業協力のお願いと平塚市内での可能性を検討しました。具体的には、魚の選別・漁網の修理・水産加工の製造ラインの作業等があげられ、魚市場の加工部であれば連携できる作業があるのではないかとご紹介いただき動き始めました。次いでマッチングに向け、平塚近郊で可能性のある福祉事業所に提案、マッチングの場の設定・支援者技術支援、利用者の現場体験を行った結果、施設内就労はクオケア、施設外就労は積極的に取り組んでいるグランズ平塚に委託することで合意しました。魚市場は、多忙な日常業務の中でしらす箱の組立や番重洗浄等を行っていましたが、外注することで加工作業に集中でき生産性向上にもつながり、また福祉事業所も工賃向上が期待されます。

作業の内容

令和5年6月より、クオケアの施設内での作業が始まりました。しらす用の箱は大中小の3種類となっています。材料の引取り、製品の納入についてはクオケア所有のバンを使用し、在庫の状況を見ながら生産するようにしています。大箱については納入時の輸送効率が非常に悪いので、魚市場の配慮により加工場の一角を提供していただき、一部施設外就労として組立作業を行っています。追加で、しらすを入れるビニール袋の折返しやシール貼りも行っています。

8月からはグランズ平塚で施設外就労が開始されました。番重の洗浄が主な仕事ですが、時間給での契約ですので、冷凍魚の仕分け作業など包丁を使用する危険作業以外の仕事を魚市場の指示のもと行っています。グランズ平塚の体制は、基本支援員1名・利用者3名の4名体制で週2日の午前中ですが、作業が終わらない場合は時間延長で対応しています。両事業所とも魚市場とは距離が近いという利点もあり、密にコミュニケーションを取りながら進めています。



連携のポイント

- ① 平塚市漁協のサポートによりスムーズに連携が進んだ
- ② 通年にわたり安定的な仕事がある
- ③ 工賃については利用者の生活面も考慮してもらった

連携の重要点とその対応

■ 水福連携への理解

魚市場としては、当初、日常業務の中で作業を外注するという意識はありませんでした。

今回水福連携の事業について説明を受け、改めて業務を見直してみると、魚市場の加工場で作業をしてもらう施設外就労だけではなく、福祉事業所内で行える軽作業など、いろいろな連携が可能であることがわかりました。加えて魚市場は「水福連携をとにかく始めてみましょう」、事業所も現場体験等を通じて「これならできそう」と双方の想いが一致した点がマッチングの大きな要因であったと考えます。



■ 配送用段ボール箱の組み立て作業



■ 袋へのシール貼り付け作業



■ 冷凍魚の解凍作業

■ 工賃の設定

水福連携を開始するにあたり、具体的な作業内容の検討はもとより、工賃の設定が課題でした。会社経営上のメリット、事業所側の現状などを念頭に、お互いに継続性を考慮しながら調整しました。本件では事業所の工賃の現状に対する、魚市場側の理解が大きく、利用者の生活面について最大限の配慮を頂けました。その結果、水福連携の目的の一つである「工賃向上」に寄与できたのではと考えますが、今後横展開するにあたり、特に契約者が会社でない事例では、双方にメリットのある工賃設定の実績を積み重ねていくことが重要であると思われます。

今後の展望

■ クオケア 代表取締役 村上賢司氏

事業所の設立から日が浅く新しい事業を探していたので、とてもタイミングが良かったです。具体的には、事業所側に在庫管理を任されており、在庫の状況を見ながら生産が出来ているので、利用者にも過度の負担がかからず助かっています。



■ グランズ平塚 管理者 正戸和宏氏

これから利用者さんを増やしていきたいと考えている中、水産業の職種での作業実績は事業所としてPRになります。ご利用者の個々の特性に合わせて仕事の選択肢を上げられることが利用者のやりがいにつながります。ご利用者の方々がいろいろな作業を体験しながら「自信を持って働ける場」として、ぜひこの関係を続けていきたいと考えています。



■ 神奈川県より

平塚市漁協のご協力のもと、施設外就労では神奈川県内初のマッチングとなりました。

関係各位と緊密に協議を重ねた結果、平塚茅ヶ崎魚市場の水福連携への理解と前向きな思いから施設内就労及び施設外就労2件の契約が成立したことは大きな成果であると考えます。契約に先立ち、支援員への技術研修、利用者への現場体験

を適切に行えたことが契約成立のひとつの大きな要因ではないかと考えます。また、箱の組立て作業、洗浄作業、袋詰め作業は水産業特有の作業ではなく、これまで福祉事業所が培ってきたノウハウを活用できる作業であり、今後同様の連携の展開が期待できるモデルケースといえます。

*本契約は2024(R6)年6月30日をもって契約満了となっています。

(株)鮑屋 NPO法人 障害者地域作業所 地域活動支援センターゆう
 小田原市早川 1-4-10 小田原市小台 340-2

小田原の魚ブランド化を推進したい。福祉事業所に付帯作業を委託することにより、水福連携を通じ地域貢献にも寄与したい。



■ 連携の経緯

株式会社鮑屋（以下、鮑屋）は創業 430 余年の小田原市に拠点を置く水産仲卸会社です。卸売のほか自社工場で水産加工品の製造販売も行っています。特定非営利活動法人 障害者地域作業所 地域活動支援センターゆう（以下、作業所ゆう）は、障害者に対して地域生活の支援に関する事業を通じ、福祉の増進に寄与することを目的として活動する NPO 法人であり、チラシの封入・製品のラベル貼り・お菓子箱の組立・自動車部品の製造等を行っています。

本件の事例ですが、小田原の刺網漁師が春先の「あんこう」の魚価低下に困っていました。そこで小田原市水産海浜課を通じ、「小田原の魚ブランド化消費大協議会」が「小田原地魚大

作戦協議会」に「あんこう」を使用した新商品を開発することを依頼し、その結果レトルト「あんこうカレー」を開発・販売することに決定しました。鮑屋は小田原地魚大作戦協議会のメンバーであり、自社で商品を開発できる体制のある水産加工業者であることから、商品開発にも中心的な役割を担いました。また販売についても自社店舗のほか、協議会会員・協力店舗との調整も行い、販路創出にも寄与しています。商品化はできましたが、それに付随するあんこうカレーへの袋詰めやシール貼りは以前から付き合いのあった作業所ゆうに委託することになりました。なお、小田原あんこうの PR のため「小田原あんこうカレー」を令和 6 年 1 月 21 日に開催された「FISH-I グランプリ」に出展し、審査員特別賞を受賞しました。

作業の内容

作業内容は、レトルトの「あんこうカレー」のパッケージに賞味期限等のシールを貼り、本体を専用の紙袋に包装しダンボールに詰める作業です。カレー本体、パッケージ、シール及びダンボール等の材料は、都度鮑屋が作業所ゆうの進捗状況を見ながら納品しています。また、作業所ゆうへの材料の納品や、完成品の引取りから客先への納品も鮑屋が別件の「ついで」に行っており、双方が近い関係にあるという立地の良さが活かされています。なお、本件は製品の性質上、期間限定商品ではありますが、毎年継続することが決まっています。令和 6 年度分については 2 月から 3 月にかけて、予定数の 2,880 食分を終えることが出来ました。作業にあたっては、その方法方法についてよく話し合い、先行販売分や緊急な納期には鮑屋で対応し、追加注文についても作業所ゆうの仕事量によって柔軟に調整しています。これは日頃からの信頼関係によるものと考えます。また両手作業が困難な利用者については、簡単な治工具を作製することで作業性の改善を行っています。



連携のポイント

- ① 何でも相談できる信頼関係ができていること
- ② 作業所の他の仕事量によって柔軟に対応していること
- ③ 双方の役割分担が明確であること

連携の重要点とその対応

■ 持続可能な水福連携へ

小田原市は、大規模な漁港のほか、干物や蒲鉾に代表される様々な加工会社も多数あります。既に障がい者等を雇用した実績がある企業もあり、今回の水福連携事業についても前向きに理解を得られたこと、また小田原市の水産部門及び福祉部門の情報提供を始め様々な協力を得られたことも重要なポイントとなっています。マッチングを進めて行く中で、企業側は「利益」が出ること、事業所側は「工賃」が少しでも向上することを念頭に置いて活動していますが、どちらかに偏ることなくお互いにメリットがあり持続可能な関係づくりが必要です。なかなか難しい問題ではありますが、事例を重ねていく中で見えてくることもあると考えます。



■ パッケージへ賞味期限のシールを貼る



■ パッケージへの封入作業



■ 完成品

■ 事業範囲の拡大

鮑屋は小田原産地仲買卸業の他、加工品の製造・直販、外食・小売事業など株式会社 AWABIYA ホールディングスとして手広く事業展開している水産業者です。特に水産物新商品の開発は小田原市漁業の活性化の一翼を担っています。「あんこうカレー」を発端に新たな加工品の開発にも取り組まれており、そのためには福祉事業所の協力が欠かせないと言われています。鮑屋アバロンフーズ事業部の営業課長は、今後水福連携のコーディネーターとして活動することも視野に入れてくださっています。具体的な実践経験を持たれた方がコーディネーターとして水福連携を推し進めていただけると今後の拡大にも期待が持てそうです。

今後の展望

■ 鮑屋 アバロンフーズ事業部 猪俣剛史氏

作業所ゆうさんとは以前からダイレクトメールの紙折り作業などを通じて、連携をしていました。その一環として、今回の「あんこうカレー」の袋詰め契約にもつながりました。「水福連携」の言葉は知っていましたが、この事例がそのひとつであることは大変良いことだと感じています。弊社としては、あんこうカレーの他にも様々な商品開発を予定しています。



■ 神奈川県より

本件は、当事者同士が他分野での付き合いを通じてお互いの状況を理解していたことで、水福分野においてもスムーズに連携が進み、小田原市の地魚の知名度向上にも貢献した事例です。また、袋詰めやシール貼りの作業は、水産業特有の作業ではなく、これまで福祉事業所が培ってきたノウハウを活用できる作業であり、今後同様の連携の展開が期待できるモデ

■ 地域活動支援センターゆう所長 古木映里氏

鮑屋さんとは既に信頼関係も構築出来ており、何でも相談できる間柄のため、コミュニケーションには問題がありません。材料製品の搬入搬出の輸送については、鮑屋さんが全て行って下さっており、こちらとしては生産に集中できるので大変ありがたいです。また、追加の仕事についても、こちらの事情も考慮していただき、話し合いで柔軟に対応しています。これが長くお付き合いできる秘訣だと思います。



ルケースといえます。

さらに、本件は小田原市の協力を得たことがマッチング成立の大きな要因となったケースであり、今後地元自治体と連携した水福連携の実現を考えていく上でも重要なモデルケースであるといえます。

(株)大半商店  (福)小田原支援センター 第2小田原アシスト
 小田原市東町5丁目14-12 小田原市東町4丁目4-5

福祉との連携による水産業の活性化。干物加工事業の拡販と障がい者の工賃向上を空き倉庫の活用によって実現したい。



■ 連携の経緯

株式会社大半商店は小田原を拠点におく老舗の干物加工会社です。連携先の小田原支援センターは就労継続B型事業所で、大半商店とは徒歩で5分、加工所までは車で15分程度と好立地条件にあります。

令和5年度から始まったかながわ水産業福祉連携の推進を目的として、小田原ひもの協同組合に水福連携推進事業の概要を紹介し、参加協力を募りました。これに対し大半商店から地域の活性化のために是非協力したいとの申し出がありました。

そこで、マッチングに向けた条件等のエントリーシートを大半商店に作成していただき、小田原市障がい福祉課を通じて市内事業所に展開した結果、3つの福祉事業所から興味がある、と

の回答を得ました。3つの事業所に対し、支援員の技術研修と利用者の現場体験の場を設け、それぞれ実施しました。当初はお互いが初めての取組でもあり、作業の難易度やスピードなど手探りで、レベル合わせに苦労しながらも辛抱強く何度かのトライアルを繰り返し、最終的には利用者との特性が合い、場所も近い小田原支援センターが本案件で契約することに至りました。

空き倉庫を有効活用することで拡販につなげ、将来的な事業の展開にも期待が持てそうだという大半商店と、小田原支援センターの新しい仕事を通じて利用者の働く場の確保と工賃向上につなげたいという双方の目的がマッチし、連携に至った良い事例となりました。まずは利用者が仕事に慣れ、楽しく作業してもらうことが大切です。何度も話し合いを重ね合意点を見出すことができたことが良かった点です。

作業の内容

令和6年11月より、小田原市本町にある大半商店の倉庫の2階で、作業が始まりました。当面はお中元・お歳暮等ギフト用がメインになります。実際の仕事は金目鯛、アジなどの干物を、所定の作業表に従いビニール袋に1～3枚入れシーラーで止める工程であり、利用者の適性に合わせ作業分担して取り組んでいます。完成品は品質を確認後、25袋を1単位としてダンボールに詰め倉庫の冷凍室に保管します。これは、主に支援員が対応しますが、作業の途中にトラブルが発生した場合は、大半商店のバックアップと共に支援員が利用者に対応できる態勢となっています。作業環境は扱う商品の関係上、室温が低く設定されていますが、現場体験を数回行った結果、問題なく作業ができています。

現在は、大半商店の内製でも袋詰め作業は行っていますが、倉庫での作業の生産性向上を見極め、今後受注量拡大のための拡販を行っていくという計画であり、工賃の側面からもお互いWIN-WINの関係性になることを期待しています。



連携のポイント

- ① 通年にわたり安定的な作業があること
- ② 付帯業務を委託することで本来業務に集中でき生産性が向上する
- ③ 現場体験等を通じ（水産側の）従業員理解を得られたこと

連携の重要点とその対応

■ 目標値の設定

どちらか一方が無理をするような関係では連携は長続きしないため、お互いがよく話し合っ方向性を見出すことが大切となります。例えば小田原支援センターは配置できる支援員及び利用者の人員・稼働時間に限りがある一方、大半商店としては経営上、一定の生産性が必要です。これを踏まえ、両社が相談して、作業の開始時間や終了時間を弾力的に運用して出荷の目標数を確保しつつ、空き時間に大半商店側が倉庫で箱詰めなどの自社作業をすることで倉庫の空き時間になるべく出ないよう有効活用を図るなどの柔軟なやりくりを進めています。



■ 袋のチェック作業



■ 商品の袋詰め作業



■ 完成品

■ 委託する範囲の拡大

この連携をさらに発展させていくためには、拡販を進めて数量を増やし、最終的にはこの倉庫での作業を事業所だけで自走できるようになることが目標です。そのためには材料の取り込みから出荷までを一貫して事業所側で管理する必要があり、最終検査が大きな課題の一つとなります。出荷梱包数の間違い、不良品の混入などのミスは客先での大きな問題につながるため、最終検査はかなりスキルの高い作業となります。当面は大半商店の社員が作業に立ち会いますが、将来を見据え管理全般を任せられるよう事業所側のスキルアップを図っていきます。

今後の展望

■ 大半商店 代表取締役 梶崎晃久氏

弊社所有の倉庫は現在物流倉庫的な機能を担っていますが、もう少し倉庫を有効利用し拡販につなげられないかと考えていました。今回、水福連携の話があり地域への貢献も含めた取組として実施することにしました。福祉事業所さんの現場体験にも何度か同席させていただきましたが、みなさんのとても丁寧な仕事ぶりを見てお任せすることにしました。まだ、始まったばかりですが、とても期待しています。



■ 小田原支援センター 小澤太嘉志氏

我々にとって水産加工は未知の分野でしたが、挑戦してみて新しい領域に経験が広がる良い機会となりました。本格的な作業を始めて利用者の配置や手順も安定してきました。大半商店さんには、手袋など装具の調達に至るまで細かな配慮をいただけており感謝しています。また専任の従業員さんが居てくれるのも大変心強く、お互い円滑にコミュニケーションが取れております。今後も相談に乗っていただきながら進めていきたいと思ひます。



■ 神奈川県より

本件は「倉庫の有効活用」と施設外就労の新しい形態という水福双方にとって有益な先事例であり、現場体験等を通じてお互いに理解を深められたことがマッチング成立の要因と考えます。

この事例は、当初はマッチング調整が難航しましたが、大半商店の障がい者雇用への理解と地域活性化に対する強い思

いが連携実現への大きな力となったケースでもあり、水産業者の水福連携に対する理解の重要性を改めて認識させる事例となりました。

また、小田原市の協力がマッチング成立に大きな役割を果たしたケースでもあるため、今後地元自治体と連携した水福連携の実現を考えていく上でも重要なモデルケースといえます。

湘南漁業協同組合 葉山支所
三浦郡葉山町堀内 50-20
漁師 長久保 晶 桜花丸

湘南の風 新葉山はばたき 生活介護事業所
三浦郡葉山町堀内1363-1
SY'Style(株) STYLE 就労継続支援B型事業所
三浦郡葉山町堀内626-6

人手があると助かる、手間のかかるひじきのごみ取り作業を、細かい丁寧な作業が得意な福祉事業所と連携。



■ 連携の経緯

葉山町は三浦半島の西北部に位置し、人口は約3万3千人の町です。長久保さんは、就業10年目の、葉山唯一の女性漁師です。真名瀬漁港に漁船2隻（第三桜花丸0.5トン他）を所有し、わかめ、昆布、ひじき等の海藻採りと加工、また、魚介については刺網漁、素潜り漁、たこ漁を行っています。福祉事業所の「湘南の風」は、相模湾の南側に面した、真名瀬漁港から徒歩5分の場所にあります。葉山町内の知的障がい者の方々が、機織り、リサイクル（アルミ缶潰し、ダンボール/アルミ缶の回収・納品）、ラベル貼りなどの作業のほか、学習・余暇活動や機能訓練等、利用者のペースや興味・関心に応じた活動に参加されている事業所です。

この事例は、葉山町漁協（現・湘南漁協葉山支所）に令和5年度から開始する水福連携推進事業のご説明に伺った際、「ひじきを乾燥させて、細かいごみを取る作業が大変でとても手間がかかるため、ひじき漁を行う漁業者は、以前は15名程度いたが、今は4～5名までに減っている」、「人手があると助かるのではないか」とのお話がありました。その後、漁協からひじき漁の漁業者をご紹介いただけることになったため、連携可能な福祉事業所を探すことになりました。

事業所の責任者に作業を体験していただいた際に、「この作業に合う利用者があるのではないか」ということになり、連携を開始することができました。細やかで丁寧さを要する作業は、利用者の可能性や特性を活かせる作業であると思われます。

作業の内容

漁解禁時期の間に採ったひじきを茹で、乾燥作業までを漁師が行います。このひじき（長ひじきと芽ひじき）を分けてから施設に届けます。利用者の作業は、黒い紙の上に乾燥ひじきを広げ、変色をしている部分を確認しながらひじきに付着しているごく小さな貝や海草などのごみを取り除くことです。作業が終わったら、一旦漁師に戻し検品されます。

検品終了後、再度施設に戻し、長ひじき25g・芽ひじき45gを1袋に入れて、乾燥剤を説明書に挟んで包み、後ろ側に入れ込んでパッキングします。封入に関しては漁師のこだわりがあるため、指示通りに行います。納品方法については、出来上がった時に連絡を入れるか、ひじきを預かった時に話し合いで決めます。

小さな町の中で、海で活躍する人々や水産業に対する関心を持っている方が多くいたことで、連携を進めることができました。また、この作業は外出が難しい利用者の方も行うことができます。

連携のポイント

- ① 湘南漁協葉山支所のご協力のもと漁業者のニーズを的確に把握
- ② 漁業者と福祉施設が作業範囲をしっかりと話し合い、作業を明確に分担
- ③ 作業を工夫する、また、細かい作業への利用者の適性を見極める



連携の重要点とその対応

■ 適切なニーズの把握

本件は水福連携推進事業を開始して最初にマッチングが成立した事例です。そのため、水福連携の当事者、特に水産業者と具体的にどのような作業での連携が可能かということを検討することも初めての経験であり、手探りで始めました。

本件は湘南漁協葉山支所の漁業者や職員からご理解とご協力をいただいたことが非常に大きな意味を持ちました。地元の漁協の協力を得ることで、外から見ただけでは知ることのできない、水産業者が抱えている課題や困りごとを把握することができました。また、そうした問題に対し水福連携の観点から何かアプローチできないか検討を進めることで、「ひじきのごみ取り」というニーズを知ることができました。



■ 漁師 長久保 晶氏

■ 細かい作業への対応と適応

ひじきのごみ取り作業は、非常に細かい作業であり、黒い紙の上で確認しないとはっきりとは目に見えないごみも多くあります。また、すぐに取れるごみばかりではなく、こびりついているものもあるため、ひじきを折らないように注意深くかつ力を入れて作業する必要があります。

こうした作業は、最初のうちは少しの分量を仕上げるのにも時間がかかり、障害福祉事業所の指導員がサポートしなければならぬ場面も多く見られましたが、作業を繰り返すうちに作業者にノウハウが蓄積され、スピード感が上がっていきました。仕上がりにについても長久保さんから「私がやるよりもきれいにできている」と言っていたほどになりました。



■ ひじきのごみ取り作業の様子
(福祉事業所：新葉山はばたき)



■ ひじきのごみ取り作業の様子
(福祉事業所：STYLE)

今後の展望

■ 漁師 長久保晶氏

これまで漁師が天気の良い日や夜間など、仕事の合間に時間を見つけて行っていた作業を施設の方へお願いすることで、精神的、肉体的な負担が減り、日常生活に良い形で変化が生じました。引き続き取り組んでいきたいと思っています。また、この取組を通じて節約できた時間を活用し、今後の展望を考えたり、実際に試験的な作業を新たに試みたりすることもできました。



■ 湘南の凧 新葉山はばたき

作業を行う際、袋のシール貼り、計量、乾燥材を取扱説明書に挟む、シーリング等のそれぞれの工程を分割する事で、作業に参加できる人を増やすことができました。

同じ葉山の地で働く漁師さんや市民の皆様にご理解いただき、福祉に関わる人への理解を広げることに寄与できたらと考えます。



■ 神奈川県より

本件は、県が水福連携推進事業を開始して、最初にマッチングが成立した事例です。地元の漁協や漁業者のご理解、ご協力のもとで実現した事例であり、水産業者側の福祉に対する理解が水福連携の成立には不可欠であることが強く実感された事例です。

また、ひじきのごみ取りは細かい作業であるため、作業を

始めたばかりの障がい者は苦勞することもあります。作業に慣れていく中で作業効率や納品物の質の向上が見られ、障がい者の方が持つ可能性の大きさを強く感じることができるといった事例です。

今後ひじきを生産する他の地域で水福連携を検討する上でも参考になる事例といえます。

湘南漁業協同組合 葉山支所
三浦郡葉山町堀内 50-20
漁師 舘野 晃士 晃丸
漁師 長久保 晶 桜花丸



湘南の風 新葉山はばたき 生活介護事業所
三浦郡葉山町堀内1363-1
SY'Style(株) STYLE 就労継続支援B型事業所
三浦郡葉山町堀内626-6

自然を感じる事ができる漁港の作業。

人手がほしい干し作業で、福祉事業所の利用者が楽しく作業。



■ 連携の経緯

漁師の長久保さんは、就業 10 年目、真名瀬漁港に漁船2隻（第三桜花丸 0.5トン他）を所有しています。わかめ、昆布、ひじき等の海藻採りと加工、また、魚介については刺網漁、素潜り漁、たこ漁を実施しています。

漁師の舘野さんは、就業 10 年以上の漁師で、一色海岸に作業小屋があります。わかめ、昆布、ひじき等の海藻採りと加工、また、魚介については刺網漁を実施されています。

福祉事業所の「湘南の風」は、相模湾の南側に面した、真名瀬漁港から徒歩5分の場所にあります。福祉事業所のSTYLEは、真名瀬漁港から徒歩20分の場所にあります。「自分らしく生き生きと仕事がしたい」、「オシャレなお店で楽しく働き

たい」、「色々なことを経験して企業に就職したい」といった想いに寄り添い、夢や目標と一緒に考え、実現するよう全力で支援している事業所です。

この事例は、養殖のわかめと昆布を 11～3月にかけて取り扱っていますが、干す作業で人手が必要との声を漁業者からいただいたことをきっかけとして連携が成立しました。また、同地域で先行して成立していたひじきのごみ取り作業の事例と同じ当事者（長久保さんと2事業所）との間で連携が始まったことをきっかけとして、別の漁業者（舘野さん）との連携にもつながっていき

ました。天然わかめについても4月頃から作業が始まるので、それも手伝ってほしいとのお話をいただいたことで、持続可能な連携に結び付けることが出来ました。

作業の内容

漁師が漁で採ったわかめを、めかぶの部分と葉に分けて包丁でカットします。そのわかめを茹でると黒褐色から緑色へと変わるので、それを釜のすぐ横の水槽で洗います。次にわかめをカゴに並べて水切りし、浜で干します。この干す作業を福祉事業所が行います。干しあがったわかめを計量して袋詰めにする作業も福祉事業所にやっていただいています。

漁港の干場で茹で上がったわかめを直ぐにピンチに挟んで、拡げてYの字に干します。養殖わかめはとても柔らかいので慎重に扱います。そして、挟んだ先の真ん中あたりを割いて丁寧に広げます。次から次へとわかめが茹で上がるので、効率よく干していく必要があります。

福祉事業所は、2～3名程度で作業します。寒い時期の作業となるため、大変な作業に思われますが、漁港や海岸で自然を感じながら作業ができるということが特色であると言えます。利用者も楽しく、海の香りや風を感じながら作業を行えます。

連携のポイント

- ① 先行して成立したひじきのごみ取り作業で水産業者の信頼を得たこと
- ② 漁港や海岸など、生き生きと作業できる環境
- ③ わかめを茹でる水産業者と干す障がい者が同じ空間で作業できること



連携の重要点とその対応

■ 信頼関係を醸成することの重要性

本件は同地域でのひじきのごみ取り作業（20 ページ参照）と同じ当事者（漁業者の長久保さんと2事業所）の間で連携が始まりました。ひじきの連携事例で水産業者・福祉事業所の双方がメリットを感じ、信頼関係を築けたことが新たな連携の検討につながりました。

また、もともと当事者同士が知り合いだったということもあり、新たな連携に向けた機運やアイデアが生まれやすい土壌があったように思われます。

わかめは水を吸っていると重たく、持ち上げるのにも力が必要な大変な作業ですが、このような信頼関係の中で作業も生き生きと作業を行うことができています。



■ わかめ干し作業



■ わかめ干し作業



■ 茹でて洗ったわかめ

■ 漁港・海岸での作業

本件は、施設外就労の中でも、海岸で作業するケースであり、他の連携事例と比べてもとりわけ海や青空の下といったロケーションで作業ができるため、室内の作業では味わえない開放感を強く感じることができます。

ただし、施設利用者の障がい者の中には、外での作業が苦手な方や、外出が難しい方もいらっしゃいます。

作業場所がどこかということは、作業を行う上でも根本的な条件になりますので、施設利用者の特性を踏まえて作業の可否や適否を判断していくことが重要であると考えられます。

今後の展望

■ 漁師 長久保 晶氏

作業量にはこだわっていないので、今後もぜひ作業をお願いしたいと思っています。作業いただいている合間に片付けができたりするので、他にお願する作業についても検討していきたいと思っています。福祉事業所の方と加工品の連携なども、今後、検討できたらと思います。

また、わかめを干す作業だけでなく、めかぶのカットなどについても作業を効率的にできるように作業方法などを工夫したいと思っています。その際、スピードも大切なので、対応していただけるように、話し合いながら考えていきたいと思っています。



■ SY'Style

地元の漁師さんと連携させていただけることが、私たちにとってまず大きな一歩であると思っています。

この一歩がとても大切なので、作業は難しいかもしれませんが、なるべく利用者の方が楽しく作業に関わっていけるよう、また、日中活動の楽しみや、活動の場の充実に繋げて今後も関係を持続可能にしていけるよう、連携のあり方を探っていきたいと思っています。



■ 神奈川県より

本件は、同地域で先行して成立したひじきのごみ取りの連携事例（20 ページ参照）で水産業者にメリットを感じていただけたことがきっかけとなってマッチングに結び付いた事例であり、ある連携事例から別の連携事例へと波及したケースとしても大きな意味がある事例です。

また、施設内・外の両方で作業する形態であり、海岸や漁

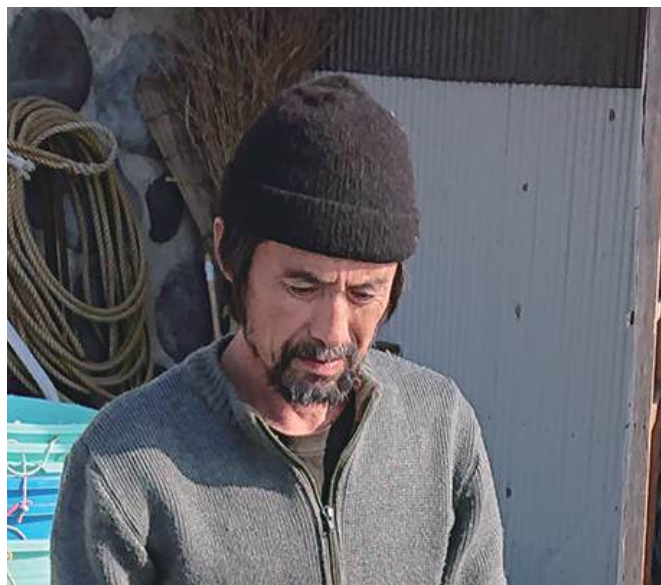
港での作業もあるため、就労する障がい者が水産業や漁業に携わっているという意識を持ちながら作業ができる事例です。

今後わかめを生産する他の地域で水福連携を検討する上でも参考になる事例といえます。

湘南漁業協同組合 葉山支所
 三浦郡葉山町堀内 50-20
 漁師 長久保 晶 桜花丸
 漁師 舘野 晃士 晃丸

SY'Style (株) STYLE 就労継続支援B型事業所
 三浦郡葉山町堀内626-6
 一般社団法人葉山ぷらす (多機能型事業所) hanto
 三浦郡葉山町堀内638-10

施設内で可能な作業、外したロープは再利用。
 漁師の仕事に直に触れ、楽しみながら作業ができる。



■ 連携の経緯

漁師の舘野さんは、就業 10 年以上、一色海岸に作業小屋があります。わかめ、昆布、ひじき等の海藻採りと加工、また、魚介については刺網漁を実施されています。

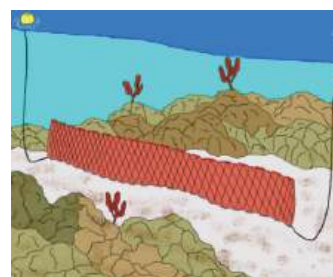
漁師の長久保さんは、就業 10 年目、真名瀬漁港に漁船2隻（第三桜花丸 0.5 トン他）を所有しています。わかめ、昆布、ひじき等の海藻採りと加工、また、魚介については刺網漁、素潜り漁、たこ漁を実施しています。

福祉事業所の STYLE は、真名瀬漁港まで徒歩 20 分、福祉事業所の hanto は、一色海岸まで車で 10 分の場所にあります。

本事例は、葉山町で先行して成立していたひじきやわかめの水福連携が軌道に乗る中、ほかになにかできる作業はないか、

葉山町の漁協に所属する漁業者が考えてくれたことがきっかけとなり、漁で使用した魚や海老の刺網を解体する作業でのマッチングに結び付けました。

※ 刺網とは…刺網は帯のように横方向に長い形をしており、これを魚の通り道を遮断するように張ります。網の上辺には小さな浮きが、また、網の下辺には小さな重りがいくつも取り付けられており、これにより刺網は横断幕のように海底から立ち上がる形となります。



作業の内容

刺網は、網を浮かせるためのロープ、魚を取るための網、網を沈めるためのロープで構成されています。これらの間をつなぐ紐を切り、3つのパーツに分けることで上下のロープの再利用ができます。長さ 15 m 程度の刺網を、椅子にぶら下げたり、解したりしながらハサミを使って丁寧にカットし、3つのパーツ（網とロープ）に解体していきます。

一人でも複数でも行うことができますが、刃物であるハサミを使用する作業なので、このような作業が得意な利用者が取り組んでいます。また、一人で集中して作業したい方や、外での作業は難しいが施設内であれば作業が可能なる方も行うことができます。

なお、網を処分するには、産業廃棄物として処理されるため費用がかかりますが、解体することで、再利用できるものと町の廃棄物として取り扱えるものに分別できるため、経費削減になります。網はプラスチックとしてゴミ処理が可能となり、外したロープは再利用し、新しい網に紐で繋ぎ直して、刺網として再度使用します。SDGs12（つくる責任つかう責任）の観点からも貢献できたと考えます。

連携のポイント

- ① 漁業者と福祉事業所の間で信頼関係が構築されていた
- ② 漁業者の側から連携が可能と思われる作業のご提案をいただいた
- ③ 漁業者が漁で使う道具に直接関わることへのやりがい



連携の重要点とその対応

■ 刃物を使った作業での連携

水福連携は障がい者が作業を担うため、危険な作業は行いませんが、本件はハサミを使います。そのため、作業には注意と慣れが必要です。個々の障がい者の特性を踏まえ刃物を使う作業に適した作業員に行っていただく必要があります。

神奈川県内の先行事例では冷凍マグロについた皮を薄く包丁でそぎ落としていく作業で包丁を用いた事例があります。また他県の先行事例でも海苔をハサミでカットする事例があるなど、安全に留意することで連携する余地が広がっていくものと考えられます。

■ 連携の拡大に向けて

本件は刺網を「ばらす」作業ですが、この作業での連携がうまく進んでいけば、今後は刺網を「つくる」作業にも拡大できる可能性があります。

刺網は漁業者が漁を行う上で非常に大切な道具であるため、これを「つくる」作業は「ばらす」作業以上に慎重さや作業的確かさが求められるとともに、満たすべき水準も高くなります。また、刺網は、個々の漁師ごとにこだわりや仕様が異なるため、作業が複雑になることも想定されます。そのため、今後連携を拡大していく場合には、現場体験などのトライアルを丁寧に進めていくことで実現につなげていければと考えています。



■ 福祉事業所のスタッフへの研修



■ 網とロープの解体



■ 網とロープの解体

今後の展望

■ 漁師 舘野晃士氏

漁師の中には、ばらし作業を行い、網を新しくしていきたいと考えている漁師もいます。

また網を自分の考えるやり方（目数）で作直してくれると助かると考えている方も多くいます。

今後は、これらの作業をどのようにしていくかを探っていききたいと思います。



■ SY'Style

施設内で作業ができるので、天候にも左右されずに行うことができます。また、寒い冬でも施設内で作業ができるので助かっています。



■ 神奈川県より

漁具や漁網の修理での連携については、水福連携推進事業を開始した当初から可能性を探っていましたが、なかなか事例を生み出すことができなかった中、ひじきのごみ取り（20ページ参照）やわかめ干し（22ページ参照）での連携が順調に進んだことで、刺網のばらしもできないかという検討が漁業者によってされるようになり、マッチングに結び付いた事例です。

ある連携事例から別の連携事例へと波及したケースとしても大きな意味があります。

また、今後刺網漁業を行う他の地域で水福連携を検討する上でも参考になる事例であるとともに、別の漁具の修理での連携を検討する上でも大変参考になる事例といえます。

ともに生きる社会かながわ憲章

- 一 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 一 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 一 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、
いかなる偏見や差別も排除します
- 一 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます

平成 28 年 10 月 14 日
神奈川県

かながわ水産業福祉連携推進事業マニュアルガイドブック 2025

2025年3月発行

神奈川県環境農政局農水産部水産課水産企画グループ

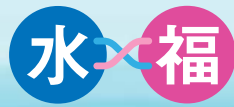
TEL: 045-210-4542 (直通)

認定特定非営利活動法人 藤沢市民活動推進機構

TEL: 070-2193-4100 (水福専用)

特定非営利活動法人 湘南 NPO サポートセンター

TEL: 080-7972-3778 (水福専用)



神奈川県環境農政局農水産部水産課水産企画グループ

認定特定非営利活動法人 藤沢市民活動推進機構

特定非営利活動法人 湘南 NPO サポートセンター